

# 地球温暖化と農業・食料問題

地球温暖化の進行は、農業にどのような影響をもたらすのでしょうか？既に工業化以前にくらべて地球の地表温度は0.7℃上昇しており、世界中で極端な自然現象が増えています。今後の世界、日本の食料生産はどうなるのか、また、現在日本の農業の現場で見られる兆候とその対策の現状について知り、地球温暖化による私達の食料及び産業への影響について考える場にしたいと思います。お誘い併せの上、ぜひご参加ください。

**日時**  
2006年 12月3日(日)  
13:30 ~ 16:30

**場所**  
大阪産業創造館 6階 会議室 E

**資料代**  
一般 1000円、会員・学生 800円

**定員**  
110名(先着順)



スケジュール	内容
13:35 ~ 13:40	開会挨拶
13:40 ~ 14:50	<p>■報告1 「地球温暖化の見通しと農業への影響」 渡邊紹裕 氏 (総合地球環境学研究所教授)</p>
14:50 ~ 15:20	<p>■報告2 「農業の現場から、影響とその対策」 富江智 氏 (JA グリーン近江農業協同組合)</p>
15:30 ~ 16:20	■質疑応答・意見交換
16:30	閉会

※参加された方に、CASA が作成した地球温暖化の影響についての資料集を配布致します。

## 【主催】

NPO 法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 (CASA)

住所：大阪市中央区内本町 2-1-19 内本町松屋ビル 10-470 号

Tel : 06-6910-6301 Fax: 06-6910-6302 E-mail: office@casa.bnet.jp

ホームページ <http://www.bnet.ne.jp/casa/index1.htm>

## 報告者プロフィール

### 渡邊 紹裕（わたなべ つぎひろ）氏

1953年生まれ。人間文化機構総合地球環境学研究所・研究部・教授。  
専門は農業土木学・灌漑排水工学で、主に農業や農村における水利用と地域環境の関わりについて研究している。総合地球環境学研究所では乾燥地域を中心に、灌漑排水管理の意味と基盤整備のあり方を探っていて、研究プロジェクト「乾燥地域の農業生産システムに及ぼす地球温暖化の影響」のリーダーを務める。最近の著書に「こどもたちに語るこれからの地球」講談社（共著、2006）などがある。

### 富江智（とみえ さとし）氏

米農家を営みながら、JAグリーン近江農業協同組合で栽培指導などにあたっている。グリーン近江農協では温暖化に対応して遅植えだけでなく、暑さにも強いヒノヒカリへの品種転換なども試みており、良質でおいしい米作りのために様々な努力がなされている。このような努力を消費者にも伝えるため、2005年にフォーラム気候の危機が開催した「なんか変やで！気候の危機を考える」では、「農作物に与える影響とその対応策」というテーマで報告し、農業者の温暖化対応策についての理解を深める活動なども行っている。

## 会場へのアクセス

### 大阪産業創造館 6階 会議室 E

住所：大阪府中央区本町 1-4-5

電話：06-6264-9808

交通：地下鉄堺筋線・中央線「堺筋本町」  
駅下車、12番出口から徒歩5分



## 参加申込み

FAXでお申込み：必要事項をご記入の上、06-6910-6302 までお送りください。

E-mailでお申込み：必要事項を明記の上、件名を「12/3 シンポジウム申込み」として、  
office@casa.bnet.jp までお送りください。

お申込み締切：2006年12月1日（金）

お名前（ふりがな）	
ご所属	
ご住所	
お電話 / ファックス	
E-mail (ブロック体ではっきり とお書きください)	@

※2名以上で参加をご希望の場合は、お手数ですが人数分のお名前、ご連絡先をお教えてください。

※お申込みに記載された情報は、CASAからのお知らせの目的で使用させていただく場合がございますので、ご了承ください。